



キビタキ

ふるさと
講座

金光寺山の自然シリーズ 《渡り鳥の中継地》

海

士町の生物を見てみると、町内で繁殖しているものと一時期のみ滞在するものに分かれます。哺乳類をはじめほとんどの生物は前者ですが、昆虫の一部と野鳥については後者もあります。今回は、渡りの季節にほんの一時のみ海士町で羽根を休める野鳥について述べます。「渡り鳥」ってどのような生態の野鳥なのかご存知でしょうか？大きく分けて次の3タイプです。

●「夏鳥」 冬の間は東南アジア地域など暖かい地方で過ごし春になると日本にやってきて子育てをするタイプ。海士の代表的な種は、キビタキ、ツバメなど。

●「冬鳥」 秋ころになると日本に渡ってきて越冬し、春になると日本列島よりも北緯度にある大陸や島に移動し子育てをするタイプ。海士の代表的な種は、ジョウビタキ、シロハラ、カモ類など。

●「旅鳥」 越冬も子育てもここで行わないものの、春と秋に他の地域や国に移動する途中で立ち寄りタイプ。海士の代表的な種は、ノビタキ、キセキレイなど。

ここ海士町には、このうちどのタイプが多いのでしょうか。答えは「旅鳥」です。なぜなら、このような小さな離島の場合、野鳥が生活できる森林や草原及び湿地帯などの環境が単調になりがちで、おまけに面積も限られているから、子育てや越冬するための場所にはならないからです。「海士町には何種類くらいの鳥がいるの？」とよく質問をされます。こんなとき、返答に大変困ります。理由は、海士で見られるのは渡り鳥がほとんどでしかもその大部分は旅鳥です。ということは

一時的に島に立ち寄っているだけなので海士にいたるといってしまえるのか迷うのです。「渡り鳥」が島を通過するとき、様々な方向から入ってくると思われますが、島から旅立つときの場所はある程度決まっているようです。一般的には、野鳥が向かいたい方向にある突き出た岬が選ばれます。海士町の場合、島後との関係が重要です。春の渡りの時は、最終目的地がどこであれ次の中継地点は島後となると考えられ、秋の渡りの時は島後を中継して海士に入ってくると思われます。島の中を通過するときには、ほとんどの種類が森林づたいに飛ぶのが一般的です。出て行くときも、岬形状の地形でしかも森林がある場所が好まれます。なぜ森林が好まれるのでしょうか。これは、タカ類やハヤブサ類などに襲われたときにすぐに逃げ込めるからです。海上を飛ぶときにも襲われないように水面すれすれを飛びます。島内通過するとき森林沿いと説明しましたが、森林環境があっても山の頂上部は越えず、山の周りを迂回するようなルートをとるようです。高い所を越すのはエネルギー消費が激しいからではないでしょうか。また、餌の多い広葉樹林が好まれ、スギやヒノキなど針葉樹の人工林は敬遠されがちです。このような野鳥が好む条件を満たすのが金光寺山らしく、春、秋の渡りともここに集まります。ですから、私たちの野鳥の調査も金光寺山で行っています。

調査の内容は、次号でお話します。

(海士町文化財保護審議委員 深谷 治)